

平成27年度スーパーグローバルハイスクール構想調書の概要

指定期間	ふりがな	せいふうなんかいこうとうがっこう				②所在都道府県	大阪府
27~31	①学校名	清風南海高等学校					
③対象 学科名	④対象とする生徒数					⑤学校全体の規模	
	1年	2年	3年	4年	計	中学校 816人	
普通科	313	331	384		1028	(1年:295 2年:269 3年:252)	
						高等学校(普通科) 1028人	
⑥研究開発 構想名	「エネルギーの観点から世界の改革を図る —未来を創造する産官学グローバルネットワーク構想—」						
⑦研究開発 の概要	新規にグローバルコースを設置し、以下の取り組みを行う。 Ⅰ、「シナリオ・プランニング」を用いた未来予測を、国内外の産官学と協働して行う。 Ⅱ、Ⅰに必要な専門的視座を得るため、「PESTゼミ」を開講する。 Ⅲ、Ⅰの協働演習を円滑に進め、効果的に発表するために「GE」を実施する。						
⑧ 研究開発の内容等	⑧-1 全体	<p>(1) 目的・目標</p> <p>【目的】 グローバル・リーダーを「地球規模の視野を持って世界のあり得べき未来図を描き、社会をより良い方向に導いていく人材」と定義し、その育成のために、「未来を読み解く力」と、「世界に発信する力」を身につけるための教育システムを開発する。</p> <p>【目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ビジネス手法「シナリオ・プランニング(以下SP)」を学習教材として体系化する。 ・国内外の産官学と、SPの協働演習を通じて交流し、その手法を普及する。現在11の協力団体を指定期間中に50に増やす。 ・海外との交流機会を増やし、4技能全てを高めるための英語教育を行うことで、TOEFL iBT100点以上取得者を60名以上輩出する。 ・課題研究に必要な情報処理を円滑に行うために、情報技術の実践的な国家資格「ITパスポート」を全員が受験し、合格する。 <p>(2) 現状の分析と研究開発の仮説</p> <p>日本の伝統的な価値観を重んじる教育を行ってきた本校は、高い進学実績を誇り、優秀な人材を輩出してきた。その反面、生じてきた課題として、保守的なキャリア志向、英語学習における「話す」能力の未成熟、主体性の不足、情報技術の未習得等が挙げられる。SPを用いた未来予測を高度なレベルで行い、その研究成果を効果的に発表するための力を身につけることで、これらの課題を克服できるという仮説を立てる。</p> <p>(3) 成果の普及</p> <p>年に2回中間発表会を行い、高校3年次には市のホールを用いて研究発表を行う。各プログラムに関する感想を毎回生徒から集め、編集して開示する。英語版のHPも作成する。協働演習を通じてSPを教材として普及し、共に未来を考えるネットワークを構築する。</p>					
	⑧-2 課題研究	<p>(1) 課題研究内容</p> <p>テーマ：「シナリオ・プランニングを用いて未来のエネルギー事情を考える」</p> <p>大手エネルギー会社ロイヤル・ダッチ・シェル社が用いたことで有名なシナリオ・プランニングの手法を取り入れた未来予測を、昭和シェル石油(株)の専門家による監修を受けて高校生向けに教材化し、実施する。これは複数の「起こりうる未来のシナリオ」を論理的に創り上げ、未来に備えようという方法論であり、多様な未来の可能性を考えることで、リスクを回避し、より望ましい未来への道筋を模索しようというものである。シナリオを作るプロセスの中で、視野を広げ、多様な「未来を動かす原動力」となる要素を探し出し、それらの重要性や因果関係を考察し、主体的に未来を</p>					

	<p>創り出す力を育成する。高校生の獲得し得る知識には限界があるため、生徒が課題研究として設定する未来予測のテーマを『エネルギー』に絞り、関連する情報を提供していく。</p> <p>SP を実施するためには教科教育の枠を超えた知識や分析力が必要となる。Political、Economic、Societal、Technological の4つのゼミを開講して専門的な視座を獲得する。生徒は1年次に全てのゼミの基礎講座を受講し、2年次にはいずれかのゼミを選択する。SPはこの4つのゼミから数名ずつを集めた10数人の班を一つの単位として実施する。</p> <p>高校3年次には、課題研究の集大成としての研究発表大会を、国内外の協力団体を招いて、生徒主体で実施する。</p> <p>(2) 実施方法・検証評価</p> <p>【実施方法】</p> <ul style="list-style-type: none"> 週2時間の総合学習の時間を用い、各学年で以下のように実施する。 <ul style="list-style-type: none"> 高校1年次：『PESTゼミ(基礎)』『GE』『PIT』 高校2年次：『SP』『PESTゼミ』『GE』 高校3年次：『SP』『GE』 外部の専門機関(大学、企業、地方公共団体等)や高校と連携し、研究開発内容について監修を求め、協働SP演習を行う。 <p>【検証評価】</p> <ul style="list-style-type: none"> 各時間における自他の感想や評価を生徒から集めてポートフォリオ化し、検証する。 定期的にポートフォリオをもとにレポートを作成させ、検証する。 中間発表会、研究発表大会に各協力団体を招き、評価を求める。 定期的な生徒、保護者、職員に対するアンケートを実施する。 <p>(3) 必要となる教育課程の特例等</p> <p>特になし</p>
<p>⑧ -3 上 記 以 外</p>	<p>(1) 課題研究以外の研究開発の内容・実施方法・検証評価</p> <ul style="list-style-type: none"> 発表をより広範囲に効果的に行い、また、国外の協力校とも協働してSPを行うために、『GE(Global English)』の授業を行い、英語の4技能を育成する。 研究に要する膨大な情報処理を円滑に行うため、『PIT(Practical Information Technology)』の授業を行い、ビジネスレベルの情報処理技術を身につける。 「校内自由研究グランプリ」を実施し、個人単位での研究と発表を行う。 国語・英語・情報の授業内容を課題研究に則して改革する。 <p>(2) 課題研究の実施以外で必要となる教育課程の特例等</p> <p>特になし</p> <p>(3) グローバル・リーダー育成に関する環境整備、教育課程課外の実施内容・実施方法</p> <ul style="list-style-type: none"> 海外連携先の拡充と、そのための専門担当部署の設置。 ICT環境の充実として、各HRクラスへの電子黒板とPCの設置。 映像研究部の新設。 国内修学旅行を、海外への研修旅行に変更。
<p>⑨その他 特記事項</p>	<p>本校は、上記の構想を実施するため、平成27年度よりグローバルコースを新設する。平成27年3月に、新規連携先であるマレーシア工科大学へ研修旅行を行う等、既にそのための取組みを開始している。</p>

ふりがな	せいふうなんかいこうとうがっこう	指定期間	27～31
学校名	清風南海高等学校		

平成27年度スーパーグローバルハイスクール 目標設定シート

1. 本構想において実現する成果目標の設定（アウトカム）								
	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	目標値 (31年度)
自主的に社会貢献活動や自己研鑽活動に取り組む生徒数								
a	SGH対象生徒:		人	人	人	人	人	160人
	SGH対象生徒以外:		52人	48人	人	人	人	80人
目標設定の考え方: 主にボランティア活動を想定し、自主的に行動することを目標とする。								
自主的に留学又は海外研修に行く生徒数								
b	SGH対象生徒:		人	人	人	人	人	120人
	SGH対象生徒以外:		19人	17人	人	人	人	40人
目標設定の考え方: 一般公募の短期留学、海外研修を経験した生徒数。海外に目を向ける生徒が増えることを目標とする。								
将来留学したり、仕事で国際的に活躍したいと考える生徒の割合								
c	SGH対象生徒:		%	%	%	%	%	100%
	SGH対象生徒以外:		%	48%	%	%	%	20%
目標設定の考え方: 生徒の意識調査のアンケート結果による。								
公的機関から表彰された生徒数、又はグローバルな社会又はビジネス課題に関する公益性の高い国内外の大会における入賞者数								
d	SGH対象生徒:		人	人	人	人	人	40人
	SGH対象生徒以外:		7人	5人	人	人	人	10人
目標設定の考え方: 国際音楽コンクール、青少年の主張全国大会、書道コンクール等において表彰され、入賞することを目標とする。								
卒業時における生徒の4技能の総合的な英語力としてCEFRのB1～B2レベルの生徒の割合								
e	SGH対象生徒:		%	%	%	%	%	100%
	SGH対象生徒以外:		6.10%	6.20%	%	%	%	20%
目標設定の考え方: GTEC(Basic/Advanced)スコア600点以上の生徒の割合。SGH対象生徒全員がこのレベルに達することを目標とする。								
(その他本構想における取組の達成目標) 将来起業したいと思っている生徒数								
f	SGH対象生徒:							40人
	SGH対象生徒以外:			29人				20人
目標設定の考え方: 企業、NPOなどを自ら立ち上げたいと思っている生徒数。								

1' 指定4年目以降に検証する成果目標								
	25年度	26年度	30年度	31年度	32年度	33年度	34年度	目標値 (34年度)
国際化に重点を置く大学へ進学する生徒の割合								
a	SGH対象生徒:		%	%	%	%	%	60%
	SGH対象生徒以外:	24%	26%	%	%	%	%	40%
目標設定の考え方: 現役でSGU(トップ型のみ)へ進学する生徒の割合。								
海外大学へ進学する生徒の人数								
b	SGH対象生徒:		人	人	人	人	人	10人
	SGH対象生徒以外:	0人	0人	人	人	人	人	5人
目標設定の考え方: 海外大学へ進学する生徒数を各クラス5人ずつの10人を目標とする。								
SGHでの課題研究が大学の専攻分野の選択に影響を与えた生徒の割合								
c	SGH対象生徒:		%	%	%	%	%	80%
	SGH対象生徒以外:	-	-	%	%	%	%	%
目標設定の考え方: 進学大学の学部学科を調査する。								
大学在学中に留学又は海外研修に行く卒業生の数								
d	SGH対象生徒:		人	人	人	人	人	80人
	SGH対象生徒以外:	-	-	人	人	人	人	50人
目標設定の考え方: 追跡調査を実施する。SGH対象生徒全員が留学又は海外研修に行くことを目標とする。								

2. グローバル・リーダーを育成する高校としての活動指標（アウトプット）								
	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	目標値 (31年度)
課題研究に関する国外の研修参加者数								
a	2人	2人	人	人	人	人	人	80人
目標設定の考え方: 課題研究を通じてSGH対象生徒半数以上が国外の研修に参加できるようにする。								
課題研究に関する国内の研修参加者数								
b	19人	19人	人	人	人	人	人	160人
目標設定の考え方: 課題研究を通じてSGH対象生徒全員が国内の研修に参加できるようにする。								
課題研究に関する連携を行う海外大学・高校等の数								
c	0校	0校	校	校	校	校	校	10校
目標設定の考え方: 課題研究内容を理解し、協力して頂ける海外大学・高校等を増やす。								
課題研究に関して大学教員及び学生等の外部人材が参画した延べ回数(人数×回数)								
d	0人	0人	人	人	人	人	人	150人
目標設定の考え方: 課題研究内容を理解し、参画して頂ける大学教員及び学生等の外部人材を増やす。								
課題研究に関して企業又は国際機関等の外部人材が参画した延べ回数(人数×回数)								
e	0人	0人	人	人	人	人	人	50人
目標設定の考え方: 課題研究内容を理解し、参画して頂ける企業又は国際機関等の外部人材を増やす。								
グローバルな社会又はビジネス課題に関する公益性の高い国内外の大会における参加者数								
f	6人	9人	人	人	人	人	人	60人
目標設定の考え方: エコノミクス甲子園、科学の甲子園ジュニアなど。公益性の高い大会に参加する意欲のある生徒の支援を積極的にする。								
帰国・外国人生徒の受入れ者数(留学生も含む。)								
g	8人	3人	人	人	人	人	人	30人
目標設定の考え方: 姉妹校以外の留学生も積極的に受け入れていく。								
先進校としての研究発表回数								
h	0回	0回	回	回	回	回	回	10回
目標設定の考え方: 中間発表及び研究発表に加え、公開研究授業等の機会を増やしていく。								
外国語によるホームページの整備状況								
i	○整備されている	△一部整備されている	×整備されていない					○
目標設定の考え方: 課題研究の中で生徒を中心に作成していく。								
(その他本構想における取組の具体的指標)産官学グローバルネットワークの構築								
j	0	0						50
目標設定の考え方: SP演習を協働で実施する国内外の産官学連携先数。								

<調査の概要について>

1. 生徒を対象とした調査について

	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度
全校生徒数(人)	1,022	1,028	0	0	0	0	0
SGH対象生徒数							
SGH対象外生徒数							